

イノベーション創出拠点 中百舌鳥駅周辺活性化ワークショップ
～多様なひとの交流と活動が生まれる空間活用提案～

■趣旨

中百舌鳥駅周辺エリアは、南海電鉄・Osaka Metro・泉北高速鉄道の路線が乗り入れる公共交通のアクセス性が高いエリアであり、府道大阪高石線が縦断するなど、大阪都心と大阪南部をつなぐ重要な交通結節点です。更に、産業支援機関が集積する中百舌鳥北部エリアや、フルラインアップの学問領域を持つ大阪公立大学の中百舌鳥キャンパスも立地しており、イノベーション創出につながる多様なひとが集うポテンシャルを有しています。

これらの立地特性を活かして、堺市では中百舌鳥駅周辺を「イノベーション創出拠点」と位置付け、その実現のため、令和6年5月に中百舌鳥駅前広場や中百舌鳥北部エリア等の活性化の方向を示す「中百舌鳥駅周辺活性化基本方針」が策定され、現在、中百舌鳥駅前広場については、ひと中心の広場への再編が検討されています。

一方、中百舌鳥北部エリアにおいては、堺商工会議所、堺市産業振興センター、さかい新事業創造センターが立地しているものの、周辺は駐車場や調整池などの低未利用地が多く、それらの土地の有効活用が求められています。

そこで今回は中百舌鳥北部エリアにおける、「多様なひとが新しいことに出会い、チャレンジできる拠点の形成」に向けて、低未利用地活用のコンセプトや導入機能などについて学生目線での提案を行うワークショップを開催しました。

■開催概要

- 主催 (公社)日本都市計画学会関西支部
後援 NAKAMOZU イノベーションコア創出コンソーシアム
協力 大阪市高速電気軌道株式会社・S-Cube(さかい新事業創造センター)

<1日目>

- 日時 2024年7月21日(日) 13:30～17:00
場所 S-Cube 多目的会議室
参加者 学生23名

<2日目>

- 日時 2024年8月31日(土) 14:00～17:00
場所 オンライン(zoom)
参加者 学生24名

■プログラム

<1日目>

- 13:00 受付開始
13:30 開会の挨拶および企画説明

14:15 現地見学

対象敷地に隣接する大阪市高速電気軌道株式会社(Osaka Metro)の地下検車場を見学しました。



堺市の担当川口さまのご案内で対象敷地を見学しました。



16:00 ディスカッション

対象敷地を見学した後気づいたことや今後の進め方について各班で話し合いました。



17:00 解散

<2日目>

当初は対面での発表を計画していましたが、大型台風10号上陸の予報が出ていたこともあり、8月29日の定例会にてオンライン(zoom)開催への変更を決定しました。

1. 各班の発表

- ・各班ごとにブレイクアウトルームを立ち上げ、13:00より入室できるように設定
- ・発表順はくじ引きで決定(2班→3班→5班→1班→4班)。
- ・発表12分、質疑応答5分+準備3分

2. 審査体制

以下の4名による審査員会により審査を行いました。

笹井 浩 (日本都市計画学会関西支部企画委員会委員長/総合調査設計株式会社代表取締役社長)

熊谷 樹一郎

(日本都市計画学会関西支部企画委員会副委員長/摂南大学理工学部都市環境工学科教授)

西浦 伸雄 (堺市産業振興局産業戦略部中百舌鳥イノベーション創出拠点担当課長)

加藤 典子 (堺市建築都市局都市整備部理事兼中百舌鳥・拠点整備担当課長)

3. 評価の視点

- ① 地域特性・課題の把握と魅力創出
- ② 交流とイノベーションの創出
- ③ ウォークブル・回遊性(駅周辺との関係性)
- ④ 拠点性の創出
- ⑤ ソフト面での取組や仕組み

※まちの課題を的確に捉え、その解決手法が提案されていれば現実性は問わない

4. 講評

審査員から各班に対して講評を行いました。講評の概要は以下のとおりです。

1班 (笹井委員長)

イノベーション施設において、1階の「つながる」から2階の「学ぶ」3階の「挑む」へと段階が上がっていく仕組みと建物構成が良く工夫されている。

1階の交流施設に「ファブ施設」が入っているのが良い。堺市は昔から「ものづくりのまち」としての特徴があるため、その地域性を汲んだ内容になっている。

エリア内の動線計画だけでなく、周辺の大阪公立大学、金岡エリアと結ぶモビリティが提案されている点も良かった。

2班 (西浦さま)

持続可能なまちづくりに向けた提案を具体的に描いている点が良かった。小さいときから参画し、愛着を持って成長していくことは将来の堺市の発展のために重要な視点。提案内容について、学生に必要な支援は事業の実現に向けてのサポート、例えば事業・ビジネスとして成り立

たせるための売上・利益を得ることや資金調達等も含めたスキーム作りであり、その流れが提案できているとさらに具現化できそうな提案であった。

3班（笹井委員長）

駅前公園をエリアのエントランスと捉え、エリア内に誘導するような整備を行う視点が良い。実際に大学生が運営するカフェの事例を挙げ、カフェ、コワーキングスペース、外のフリースペースを連携して、自由度の高い活用と様々な交流を生み出す提案が良かった。

4班（熊谷副委員長）

「緑」を活用した点は特徴的である。フィールドワークなどから得られた知見をうまく反映しており、先行する駅前の開発と「緑」の部分で連動させる工夫が見られた。子育て世帯を呼び込むには必須の要素であろう。加えて、農業生産活動といった市民などの自発的な取り組みが実施可能な空間が盛り込まれているところも評価できる。

5班（加藤さま）

くぼちパークや Osaka Metro の廃車利用など、地形や地域の特徴を活かし、また駐車場、駐輪場、モビリティポートなどの交通手段も備え、各機能をバランスよく配置しながら、空間を目いっぱい使った提案であった。また、実践の場・創造の場・産学連携の場などエリアごとにテーマ化し、各エリアへ導くウォークアブル空間や回遊性を考慮している点も良かった。提案内容を3D化した表紙も、わかりやすさに加え、エリア全体で計画を捉えられていた。

5. 審査結果

厳正なる審査の結果、以下の通りとなりました。各賞を受賞された方には後日賞状をお送りしました。

最優秀賞：5班

優秀賞：1班

6. 全体講評

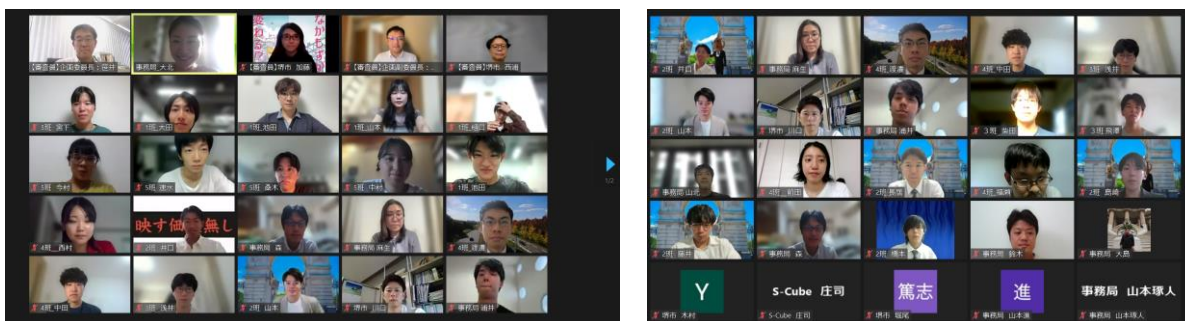
急遽、台風の影響でオンライン開催でのプレゼンとなったが、みなさん、それを感じさせないほど、発表者の交代や説明の流れ、質疑の応答などがスムーズで素晴らしかった。

複数に分かれた対象地、地下に広が Osaka Metro の検車場や窪地の調整池など、難しい条件の中、各班とも様々な工夫を凝らした計画が提案されていて良かった。

多様な「ひと」の交流と活動が生まれる空間活用提案として、各班から多様な「ひと」の目的が兼ねられる機能、段階的に「ひと」とまちを育てる考え方、学生と企業が協働できる仕組み、イノベーションのカギ（人材）をひきつける付加価値（緑、農地）、「ひと」の回遊性を高める空間の使い方など、「ひと」に着目した有用なご提案をたくさんいただきました。最優秀賞は、何度も現地を訪れて考えたとのことで、中百舌鳥の特徴を活かす、エリア全体の計画が良く考えられた提案であった。

各班のアイデアも取り入れながら、中百舌鳥が、「ひと」が来たいと思う場所、いつも「ひと」がいる場所、「ひと」と「ひと」が繋がれる場所、という好循環が起こる場所になるといい。

7. 記念撮影



(zoom 画面の特性上、重複で写真掲載あり)

ご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。また本ワークショップ開催にあたり、多大なご協力を賜りました堺市のみなさま、大阪市高速電気軌道株式会社のみなさま、会場を提供くださった S-Cube さまにも重ねてお礼申し上げます。